

目次

[概要](#)

[前提条件](#)

[要件](#)

[使用するコンポーネント](#)

[背景説明](#)

[設定](#)

[設定例](#)

[確認](#)

[トラブルシューティング](#)

[Cisco サポート コミュニティ - 特集対話](#)

概要

この資料は Cisco Unified ドメイン マネージャ (CUCDM) を使用して制限されたに **Calling line ID プレゼンテーション名前機能**および **Calling line ID プレゼンテーション数機能**を設定するためにやり方を記述したものです。

前提条件

要件

次の項目に関する知識があることが推奨されます。

- CUCDM
- Cisco Unified Communications Manager (CUCM)

使用するコンポーネント

このドキュメントの情報は、次のソフトウェアとハードウェアのバージョンに基づくものです。

- CUCDM 8.1 以上に
- CUCM バージョン 8 および それ 以上

このドキュメントの情報は、特定のラボ環境にあるデバイスに基づいて作成されたものです。このドキュメントで使用するすべてのデバイスは、クリアな (デフォルト) 設定で作業を開始しています。ネットワークが稼働中の場合は、コマンドが及ぼす潜在的な影響を十分に理解しておく必要があります。

背景説明

既定のモデルを使用する、CUCDM は **追加数変換** セクション (一般管理/数変換) の下で **Calling line ID プレゼンテーション名前機能**および **Calling line ID プレゼンテーション数機能**のために定義する設定を無視します。

設定

1. CUCDM では、一般管理/数変換へのナビゲートは/数変換 セクションを追加します。
2. Calling line ID プレゼンテーション名前を設定 すれば Restricted.This への Calling line ID プレゼンテーション数は CUCM の変換パターンを押します。
3. CUCM の変換パターンは作成されるとき、制限に対してデフォルトするために CLI ユーザー設定を設定 します。
4. CUCM では、不正確な Calling line ID プレゼンテーション名前機能および Calling line ID プレゼンテーション数機能とのパターン OK を表示できませんとはいえ。トレースは CUCDM がそれぞれパラメータのための制限プリファレンスの代わりにデフォルト プリファレンスを送信 していることを示します。

設定例

これはおこるパラメータです:

これは意図的ですが、CLI で選択される値は数を追加するとき廃棄します。変換にルートパターンの直接影響がありませんし、パターンを変換しません。その代り、2 つの代替変数を読み込むことを使用します:

- #CLIRORCLIPNUMBER#
- #CLIRORCLIPNAME#

これらの変数が機能 コンフィギュレーションテンプレート要素で使用されるときだけ、ドロップダウンな設定に実際の CUCM プロビジョニングの効力があります。

これを克服するために、モデルの次のパラメータを追加して下さい:

- コーリングライン プレゼンテーション- #CLIRORCLIPNUMBER#
- ネーム プレゼンテーション呼出します- #CLIRORCLIPNAME#

この後で、追加数変換 フィールドの CLID 設定を使用できます。

検証

CUCDM からのトランザクションを再実行し、適切な値がコーリングライン プレゼンテーション およびネーム プレゼンテーション機能を呼ぶための CUCM に押されたかどうか確かめて下さい。

トラブルシューティング

現在のところ、この設定に関する特定のトラブルシューティング情報はありません。